
国士館史関係資料の翻刻ならびに補註 第九卷

凡例

- 1 ここには、国士館史編纂のために調査収集した資料のうちから、翻刻・校訂と補註が終了し、重要度が高いものを順次紹介する。
- 2 資料名の下に（ ）で原所蔵を略記した。
- 3 誤記については（ ）で訂正した。
- 4 資料の翻刻・校訂は、国士館史資料室収蔵の原本によった。

昭和三十七年九月 国士館大学工学部機械工学科・電気工学科設置認可申請書〔抄〕（総務部保管資料）

（表紙）

〔昭和三十七年九月

国士館大学工学部*機械工学科 設置認可申請書

学校法人 国士館〕

国士館大学工学部 機械工学科 設置認可申請書

このたび国士館大学工学部 機械工学科 を設置したので、学校教育法第四条の規定により認可くださるよう別紙書類を添えて申請します。

昭和三十七年九月三十日

設置者

学校法人国士館理事長 柴田徳次郎^(徳)

文部大臣 荒木万寿夫殿

書類目次

一、設置要綱 ^(項)	五
二、学則.....	一九
三、学部及び学科別学科目又は講座に関する書類.....	六七
四、履修方法及び卒業の要件に関する書類.....	七七
五、職員組織に関する書類.....	九一
六、校地等に関する書類(図面添付).....	八八七
七、校舎等の建物に関する書類(図面添付).....	八九一
八、設備概要に関する書類.....	九〇九
九、設置者に関する書類.....	九七一
十、経費及び維持方法を記載した書類.....	一、〇九五
十一、学校法人が現に設置している学校の現況について.....	一、三四七
十二、将来の計画を記載した書類.....	一、三九一

(内表紙)

「一、設置要項」

										授業科目の概要					
										工学部	学部・学科等の名称				
										電気工学科					
										一般教育科目	授業科目				
数学Ⅱ	数学Ⅰ	自然科学系	心理学	社会学	経済学	政治学	法学	社会科学系	文学	地理学		歴史学	倫理学	哲学	人文科学系
積	微	分	代	幾	何										
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四		四	四	四	四
										必修	単位数				
										選択					
										自由					
(憲法を含む)															

機械工学科																	
蒸 氣 動 力	工 業 熱 力 学	塑 性 学	材 料 試 驗 法	材 料 力 学	応 用 数 学	專 門 教 育 科 目	実 技	講 義	保 健 体 育 科 目	独 逸 語	英 語	外 国 語 科 目	統 計 学	生 物 学	地 学	化 学 (講 義 実 験)	物 理 学 (講 義 実 験)
	六			六	八		二	二		四	八						四
四		二	二							四			四	四	四	四	

振 動 学	電 氣 工 学 実 験	電 氣 工 学	金 属 材 料 学	卒 業 計 画 及 び 論 文	工 作 実 習	機 械 実 験	製 造 図 学	図 学	機 械 設 計	機 構 学	機 械 力 学	工 作 機 械	機 械 製 作 法	流 体 力 学	水 力 機 械	水 力 学	内 燃 機 関
				六	二	四	四	二	六	四	四		八			四	
二	一	四	八									二		二	二		四

塑性加工、鑄造、初削、熔接

電気工学科																
専門教育科目																
電気計測	過度現象論	交流理論	電気物性	電気磁気学	数学	工業計測	航空原動機	ガスタービン及び	化学工学	生産工学	繊維工学	自動車工学	車輛工学	冷凍及び空気調和	空気機械	自動制御
四	四	四	四	八		四	二	四	二	二	二	二	二	二	二	二

論	機	全	全	電	真	通	電	製	図	全	電	施	電	高	送	発	自
文	械	右	右	氣	空	信	子			右	氣	設	氣	電	配	電	動
	工	Ⅲ	Ⅱ	工	管	工	工	図	学	Ⅱ	機	法	法	工	電	工	制
	学			学	回	学	学	学	学	Ⅰ	械	規	規	学	工	学	御
	实			实	路	学	学	学	学	Ⅰ	Ⅰ	及	及	学	学	学	学
	験			験								理	理				
六		一	四	四				二	二	四	四					四	
	二				四	四	四					二	二	四			二

(工作実習を含む)

校 地			事 項	教 員 組 織 の 概 要						
計	共 用	専 用		完 成 時	専 門 教 育 科 目	計	保 健 体 育 科 目	外 国 語 科 目	一 般 教 育 科 目	
			自 然 科 学 系						社 会 科 学 系	人 文 科 学 系
三、五三	七、九三	三、六〇	坪 壹	16 (6)	(30)	(3)	(6)	(4)	(12)	(5)
				()	(5)	()	()	()	()	(5)
坪 壹	坪	坪 壹	坪 壹	3 ()	(5)	()	(2)	()	()	(3)
				()	()	()	()	()	()	()
			坪	14 (11)	(14)	()	(3)	(10)	(1)	()
				28 ()	(7)	()	(1)	(2)	(2)	(2)
			坪	()	(8)	(3)	(11)	(14)	(13)	(8)
				()	(7)	()	(1)	(2)	(2)	(7)
四、〇四九	一、〇〇〇	三、〇四九	坪	2 (8)	()	()	()	()	()	()
			増設に伴う部分							
			欄							
			備考							

附属施設の概要	設備					校舎等建物	
	標本	機械器具	学術雑誌	図書	区分	専用	共用
一、附属図書館 二、体育館 三、水泳プール（五〇米九コース） 四、柔道場 五、剣道場 六、野球場 七、講堂	（二九点）	（点）	（四八種）	（九、四七冊）	完成時	計	専用 五七二坪 ^{（九）} 一九九坪 ^{（五）}
	（二〇点）	（点）	（一八〇種）	（五、二三冊）	増設に伴う部分		
	（七五点）	（点）	（七〇種）	（一、三五三冊）	完成時	共用	専用 二、四三五坪 ^{（一〇）} 六六九坪 ^{（六）}
	（六四点）	（点）	（種）	（五七七冊）	増設に伴う部分		
	（八七点）	（点）	（四八八種）	（一〇、八二六冊）	完成時	計	増設に伴う部分 二、四三五坪 ^{（一〇）} 一、三〇〇坪 ^{（三）}
	（二九点）	（点）	（一八〇種）	（五、七〇〇冊）	増設に伴う部分		

維持経営の方法 概要	本大学の授業料・入学金・入学検定料・諸証明手数料・体育館・プール・運動場使用料等の外、併設学校（短期大学・高等学校・中学校等）の諸収入金と、資産より生ずる果実及び維持員会の寄附金等を以つて維持経営する。	開設の時期	昭和三十八年四月一日	開設年次	第一年次	現に設置している学校の概要	一、国士館大学政経学部 政治学科 経済学科 経営学科 二、国士館大学体育学部 体育学科 三、国士館短期大学 国文科 経済課 <small>（科）</small> （第二部） 同 普通科 四、国士館高等学校 普通科 商業科（定時制） 同 五、国士館中学校	
---------------	---	-------	------------	------	------	---------------	--	--

〔略 二、学則〕十一、学校法人が現に設置している学校の現況について〕

（内表紙）

〔十二、将来の計画を記載した書類〕

将来の計画

一、学部および学科組織に關すること

(1) 国士館創立講^(後)四十五周年の本年（昭和三十七年）より、五十五周年の昭和四十七年に至る十年計画記念事業の一端として茲に工学部を新設逐次学科増設したい。

(イ) 学問、技術と敬神愛國、愛業心と鉄骨の身体を涵養した大学、高校、中学の工業教員養成。

(ロ) 全じく中堅的、模範的産業人養成。

(ハ) 昭和三十八年度開講予定学科（機械工学科、電気工学科）

(2) 将来施設の充実と共に政経学部第二部を増設し、勤労学徒に対し教育の充実徹底を期している。

(3) 将来、法学部（政治学科、法律学科等）増設し、占領法制改廢の法的研究、再興日本の教員養成を図りたい。

(4) 将来、文理学部、教育学部を増設し、現在の短期大学国文科を昇格して国語国文科とし、これに歴史、地理学科等を併置し、修身、歴史、地理、国語等の見識信念ある教師養成、更に理数関係学科を加えて斯界教員の育成を図りたい。

(5) 尚、農学部、科学的農業の研究、斯道の教員養成

(6) 薬学部、未知の新薬の科学的研究、教員養成 等々

(7) 更に将来、大学院を各学部開設し、思想堅固な青年研究者を養成し、信念ある大学教授を世に送

り、学界に貢献せんことを期している。

二、学科目、教員等に関する事

既設の政経学部、体育学部共に現在の学科目は必要に応じ適宜拡充し、これに要する教員も逐次、補充増員して教育の万全を図りたい。

三、校地、校舎等に関する事

校地については将来隣接地を買収し、建物、敷地、運動場の拡張を図る予定である。更に郊外清浄の地、天与の地を数十万坪購入予定している。

四、図書、機械器具、標本等に関する事

これらについては毎年予算を計上し随時、補充と整備に努め、更に教育の完遂を期し、教材、実験、諸施設の充実を期している 等々。

* 国士館大学工学部 一九六三（昭和三八）年四月、国士館大学初めての理系学部として工学部機械

工学科・電気工学科（入学定員各四〇人）が設置された。前年に打ち出されていた、文理を兼ね備えた一八教育機関からなる総合大学構想の一環として設置されたものであり、本資料の「将来の計画」からも総合大学化を目指していたことが分かる。

工学部には、一九六四年四月、土木工学科・建築学科（入学定員各四〇人）が増設された。